

令和元年度第2回 神戸市子ども・子育て会議 議事要旨

日時：令和元年9月27日(金)13時30分～15時30分

場所：神戸市役所1号館14階 大会議室

1. 開会

2. 議事

- (1) 平成30年度「神戸市次世代育成支援対策推進行動計画『新・神戸っ子すこやかプラン』」の検証について
- (2) 次期計画の素案について

●事務局

平成30年度「神戸市次世代育成支援対策推進行動計画『新・神戸っ子すこやかプラン』」の検証及び次期計画の素案について資料1及び資料2により説明（省略）。

○委員

- ・「家族が熱い一週間」事業について、29年度、30年度と実績がないが、これはなぜなのかまず教えてほしい。

●事務局

- ・キャンペーン誌の発行等に取り組んでいたが、一定定着をし、目的を達成したということで、紙媒体ではなく、インターネットでの情報提供等に切り替え、事業としては一定終息をしたという状況である。

○委員

- ・承知した。やはり、何をやるにあたって、家族というのは小さな集団のまず第一歩だと思う。
- ・地域における青少年の健全育成で、今の学校・家庭・地域の中で、時代とともに環境も大きく変化し、特に今、転換期にきているということで、地域にとっても超高齢化社会の中での人口の激減と、地域の担い手不足というか、高齢化に伴う若年層の取り込みがどこのボランティア団体でも苦勞しているところである。
- ・家庭の面においても、やはり両親共働きという状況で、放課後一人でゲームをしている等の状況が見受けられる。そして、学校の方で今、子どもの授業時間が足りないということで、自然体験等の体験学習時間の削減や先生の働き方改革の問題等、様々な要因により、今まで進めていた地域における仕掛けづくりや居場所づくり等の地域行事についても行き詰まっており、負担軽減をしなければいけないと考えている。その中でも、子どもたちの笑顔を守り育てるために、最大の効果を得るにはどうすればいいのかということに突き当たるが、まずそこで地域としてできることは何かと考えた中で、学校・家庭・地域、それぞれのバランスが大事であり、助け合う、補うということがまず大事だ

と思う。何らかの様々なことが起こる中での助け合いはいいかもしれない。しかし、バランスが崩れている中でスタートするにはちょっと意味が違うような気もする。

- ・子どもたちと対話をするのも1つの手だてとなると思う。先日も、「いきいき生徒会会議」ということで、六甲山でキャンプをし、そこで地域貢献や地域行事について、皆で話し合った。結果はまだ聞いていないが、そういう子どもたちとの接点というか、対話について務めていくことも1つの方策であると思う。
- ・そして、そういう様々な難しい事柄、制約がある中で、最後にはやめるということまではいかずとも、簡素化し、見直しをして簡単に進めていくという方法もあると思うけれども、その辺何かいいアドバイスがあれば教えていただきたい。

●事務局

- ・地域の状況が人口が減少し、担い手の不足といったような課題の中で、どのように取り組んでいくのかということ、私どもも地域の皆さんと一緒に考えていかなければならない課題に直面していると認識している。そういう中で、地域の皆様に御協力をいただき、地域・家庭・学校、そして神戸市が一緒になって様々な青少年の健全育成活動に取り組んでいるところである。そのあり方については、今、御指摘があったように、漫然とそのままにしていけばいいということではなく、やはり地域の負担をいかに軽減できるのかという観点も含めて、見直しをすることが重要であると思っている。事業の実施にあたっては、今後とも青少協の場をはじめ、様々な場面で、地域で青少年健全育成に取り組んでいただいている皆様と意見交換を密にし、よりよいあり方、地域に過度の負担をかけずに、より青少年健全育成の実が上がるような取り組み方について一緒に考えていきたいと思っている。

◎議長

- ・今、委員が1つおっしゃった、子どもとの対話ということについても検討をよろしくお願ひしたい。

○委員

- ・地域の青少年育成に関わっていて、家庭は養育、学校は教育、地域は育成と昔から言われているが、それがなかなか機能しない。家庭も積木くずしから崩壊現象に至ることもあり、学級崩壊も出てきたと、職場も危ういという状況である。以前は、地域の中で、怒ってくれる人がいたり、はよ帰りやと言ってくれる人がいたが、今、そういう関係がない。だから、親が非常にものを教えにくい時代である。青少年団体というのは、上手に対人関係を持ちにくい子どもたち、人や社会と関わる力が育ちにくい状況の中で、子どもたちを集めて体験活動をやっている。自分たちで考えて、それから集団経験という、集団で何かをやるのではなくて、集団を経験するという、できるだけそれを意欲を持ってやっというキャンプを実施している。そのキャンプをする機会というのが減少してきているということを申し上げたい。これは教育委員会との関係になるかもしれないが、学校教育と社会教育との連携みたいな部分で、その機会が少なくなってきてい

るということを申し上げたい。それが1番困っている部分である。

- それから、学校を通じての広報というのがしにくくなってきている。いろんなものを生徒に配るといのは学校も大変だと思う。学校を通じての広報活動は非常に有効であった時期があったが、それがしんどくなってきているところもあるようで、青少年団体が他の手だてをもちろん考えていかないといけないが、そういう協力が得られればいいというのが1点、これは青少年育成を通じての意見である。
- それと、保育サービスコーディネーターの方の認知度がまだ低いという、かなり力点を置いてやっておられたが、これは少し気になっている。本人が努力しないといけないこともあるが、社会人としての働きも確認するようなことを、保育士の生の声を聞きながらできないのかと、そこが見えてこないの、保育士の生の声を何か聞ける機会があればいいのではと思っているが、それも難しいのかどうか。

●事務局

- 青少年の健全育成の場づくりについて、今、御指摘があったように、学校の夏休み期間は、最近短くなり、あるいは大学生も非常に忙しく、今までみたいにそういう活動に関わる余裕がなく、時間的に難しい方が多いと聞いている。一般論的になってしまうが、限られた期間に多様な活動となると、夏休みがどうしても一番集中してできる期間ではあると思うが、夏休みに限らず、様々な場で様々な時期にキャンプをはじめ、様々な活動に子ども、青少年が参加していただけるようにということで、これは一つの例であるが、青少年育成支援事業補助金ということで、各団体が青少年の育成活動に取り組んでいただく際にその一部を20万円上限で補助させていただくというようなことで、野外活動、自然活動、世代間の交流等を促進していきたいと考えている。
- 学校を通じての周知については、私どもも認識しており、青少年団体あるいは子ども会等から、従来であれば学校からチラシを配ってもらう形で周知できていたのが、やはり今、教職員の負担軽減、先生が事務作業や雑用でなく、子どもに向き合う時間を確保するというので、そういったことをお願いしにくくなってきているというのが事実である。それに代わる学校の児童・生徒に情報を周知できる方法がないのかについては、教育委員会とも相談をしてみたいと考えている。

●事務局

- 現場の声は非常に重要だと考えている。教育・保育施設で実際に働いている皆様の声を聞くことにより、行政としてどのような対応ができるのか非常に参考になると考えている。現状でいえば、今、直接生の声を聞く場を設けてはいないが、例えば、施設長の報告から、あるいは幼稚園連盟や保育園連盟の方から現場の生の声をお聞きし、例えば人材確保・定着あるいは業務改善に関する意見を聞いている状況である。また、国が業務改善に向けた調査研究等も行っており、そういった資料も参考にしているという状況である。また、保育士会や現場で働いている先生方の集まり等の機会もとらまえて、できるだけ多くの生の声を聞いていきたい。

○委員

- ・以前に、神戸市の看護師の定着のために、20名ほどの新人看護師の研修を実施したことがある。その時、婦長さんが来られるが、グループディスカッションの時には席を外してもらい、上司のいる中でしゃべれないことを吸い上げていき、まず気持ちを受けとめていくということを行っていた。ドクターとの関係とか患者さんとの関係とかいろんな課題が出てくるが、そういうことに耳を傾けていかないと、この10月からの法改正で保育士の質という点も含めて、人員を確保していくために、私としてはもう少し汗をかかないといけないと思う。
- ・青少年育成については、大学生と子どもが関わるというのは素敵なチャンスで、中高生との関わりも同様であるが、ともに育つという利点がある。若い力を育てていくことができる。それから、家族が熱い一週間の会合に出たことがあるが、家族で過ごすことも大事ではあるが、家族から離れて生活することによって、家族を見つめ直し、生活の自立をしてみるという体験もできるので、その辺の大切さについても私たちは考えているということをお願いしたい。

○委員

- ・この「神戸っ子すこやかプラン 2024」は、分厚い冊子ではなく、端的にまとめておられて全体的に分かりやすいと思う。項目ごとに、短い言葉でよくまとめておられるが、第5章「幼児期の教育・保育の質の向上・小学校教育との連携」の箇所、今実施していることがここに入っているが、これからの5年間計画なので、先生の研修や小学校、幼稚園・保育園・認定こども園との連携ももちろんとても大切なことではあるが、一園、一園それぞれの幼稚園・保育園・認定こども園がどのような教育・保育を実践していくかということが今後もっと問われてくると思う。神戸市が管轄の園には、神戸市が年に1回、大変厳しい監査をされている。これは、厳しいというよりも中身が濃いというか、どういう教育をしているのかといった細かい資料を求められるので、そこで問題がある園であれば、来年までにここを改善してくださいということと言われる。子どもの身体の発達や体育的な活動を研究しておられる先生は、やはり乳幼児期から全身的な遊び、運動をしていかないと、子どもの成長が大変心配だということ言われているので、そういうことを、神戸市全体で、もう少し大きなビジョンを持って、小学校へ行ってから取り組む教育だけではなく、幼児期、もっと言えば乳児期から全身を使った遊び等に取り組んでほしい。そのための環境は整っているのかといった意味で、一園、一園での質の向上ということがこれからますます求められるので、どこかにそういう言葉を入れてほしいと思う。
- ・もう1つ、親御さんと過ごす時間の調査があったが、母親と過ごす時間が減っていた。丸一日一緒にいるという母親が減ってきたと思われるが、それを悪い意味で捉えないで、前向きに捉えるのであれば、その分どこかの園・施設に預かってもらって教育をされているわけである。そうすると、今度は乳児期の子どもたちがどのように施設で過ごして

いるのかというところが、この質の部分にかかってくると思う。体育だけでなく、その他のことも含め、もう少しこの辺のことを書き込んでもらえるとありがたい。

●事務局

- ・ここで御意見を伺いながら、第3回で提示する案には、その辺が盛り込めるように検討していきたいと思っている。今、委員が言われた話も、アプローチカリキュラムの中にも健康な心と体という点が示されているようなところであり、具体的にどのようなものがこの計画の中で謳われるのがよいのかという点については、また引き続き相談をさせていただきながら、盛り込んでいきたいと思っている。

○委員

- ・私も少し幼児教育のところ、5章の「幼児期の教育・保育の質の向上」の文章は3行だけで非常に簡潔に書かれていると思うが、非常に何か抽象的なようにも感じる。この「教育」と「保育」という言葉、これは一般によく使われている言葉であるが、本当に幼児期の教育というのはどういうものなのかということを知っている方が少ないのではないかと思う。今、「神戸市教育・保育施設等設置運営事業者評価委員会」の委員になっており、神戸市の土地で保育をするということで応募されてきた法人を評価している。そこでのプレゼンテーションを見ると、多くの法人は「教育」というと何か「私の保育園は英語教育を目玉にしています」とか、あるいは「音楽教育をしています」、そういった類のものを得々とおっしゃる。もちろんそれが悪いというわけではないが、基本的なものを踏まえた上で、そういうものを入れるというのであればまだ分かるが、この幼児教育という「教育」という言葉の理解が少し薄いのではないかと感じる。ここの文章は別に悪くはないが、もう少し幼児期の教育というのは何たるものかということが具体的に分かるような文章が入っているともっとよくなる気がするので、また部会でも検討をしていただければありがたい。

●事務局

- ・本日欠席の委員からも同趣旨の御意見を頂戴している。今、各委員から御指摘いただいたように、この第5章については、幼児期の教育・保育の質の向上というところに関して、この幼児期の教育の中身、例えば子どもの自立心であったり、協働性であったり、そういうものを育ていこうという中で、幼児期の教育というその言葉をもっと明確にするべきではないのか、それが保護者の理解を深めることになるのではないのかという御意見をうかがっているところである。この計画にどのような表現で盛り込んでいけばよいのか、もう少し内部でも検討し、第3回会議の中で提示させていただきたいと思っている。

○委員

- ・第2章の「妊娠・出産・子育て期の支援」と第3章の「特に支援が必要な子どもたち・家庭への支援」ということで、この2つというのは非常に関連性が深いと考えている。特に、子育て期の支援については、この基本方針ではほぼ従来どおりのように感じてい

て、特に3章の方で今現在、児童虐待防止対策というところで、区役所等の施設を羅列されているが、連携の問題や発見の問題、指導することも家庭センターの対応等、様々な問題があるので、やはりもっときちんと対応できるような取り組みもすごく大事だと思う。主な取り組みで何々の推進とか、そういうふうな形で書いてあるが、例えば、システムであるとか、連携をどうとっていか、やっぱり各々がそれぞれ推進していくというだけではなくて、具体的に学校や警察とこんなふうに関係をどうとっていか、役割をとろうとか、その辺について本当に現実的な虐待対策の方針になるのかと少し気になった。

●事務局

- ・虐待に関して、委員がおっしゃるように、確かに母子保健という視点からの連携から始まり、切れ目のない支援を拡充しているところではあるが、関係機関との連携というのは非常に大事だと思っている。要対協と略語で言っているが、国が定めているところの要保護児童対策地域協議会を区と市と両方で実施して、各関係機関、学校、施設、警察も含めて、関係機関が集まって情報を共有していくというところを大事にしている。やはり児童虐待に関しては、日ごろからの子育て支援という視点が大事だと思っており、虐待に関して早期に発見して支えていく、子どもを守っていくというのが一番であるが、保護者の方々を支えていくという点から、やはり地域の皆さん、地域の関係機関の皆さんからの通告、通報を基本に関わっていくということを大事にしたいと考えているので、その辺の文章についてはもう少し表現方法について検討したいと思う。

○委員

- ・本当に現実的な施策というか、そういうところにつながっていくのかと思うし、要対協で事例検討とかを実施しているのはよく知っているが、本当に政策の中でどのように子どもを守っていくのかということについて、どういうところを強化すればいいとか、そういうところも考えていただき、現実に頻繁に起こっているわけなので、もっと具体的な内容を検討してほしい。それとやはり早期発見するためには、そういった発見する力も必要となってくるので、例えば、保健師の教育的なところももっと強化していかないといけない。早期発見はすごく大事だと思っており、そこが防止につながるの、そのあたりのこともやはりしっかり取り組んでいただきたいと思う。

○委員

- ・こども家庭センターについては、令和3年に新たに移築ということもあり、私もちょうどその中身の内容に関して非常に関心が深く、整備や体制の強化という内容については、これからどんどん議論が進んでいくところだと思っている。児童養護の関係から言えば、第3章の「社会的養育支援の充実」の中にある、社会的養育の下で生活する子どもたち自身が自立をする際の自立支援の課題、それはやはり大きな課題だと思っている。入所してよいよ社会に巣立つ際のリービングケア、そしてその後のアフターケアに至るまで子どもたち自身が本当に自分の二本の足で立てるような、そういう人生を歩めるよう

な出発点に我々職員が立ち会うわけであるが、何と言っても人材がやはり不足している、人材を発掘しないといけない、またその人材を耕さないといけない、そして育成しなければならぬという、そういう立場の中で人材育成という問題がすごく重点的に語られていると思っている。この自立支援がスムーズにいけば、将来的には貧困の連鎖が防止されたり、あるいはひとり親家庭への支援にも影響が出てくるかと思うが、今年度から神戸市の方が自立支援コーディネーターの施設への配置ということを決めていただき、今、現状13施設の中の2施設で動き始めているところである。この自立支援コーディネーターというのは、今まで職員自身が担当している子どもたちへ自分の業務以外のところで自立に向けて一生懸命手弁当で動いていたというところがあったが、この人材を配置することによって、よりスムーズに、またその子ども一人一人の課題やニーズに特化した形で動けるようになってきていると思っているので、ぜひこれは全施設に配置していただけるような形でお願いしたいし、また、そういう方向で動いていると聞いているので、評価したいところである。

●事務局

- ・社会的養育の関係については、社会的養育推進計画というのを別途改定するという方向で進めており、検討委員会を立ち上げて議論をさせていただいているところで、その中で児童養護施設等の施設のあり方や里親委託率の向上への取り組み等について、議論をさせていただいているところである。その中で、今、委員がおっしゃった、養護施設の退所者の施設にいる時のリービングケアと、施設を出て自立した後のアフターケアというのをやはりやっていかないといけない。それは、先ほどの児童虐待の話ともつながっていて、こども家庭センターで保護して家庭復帰を目指しながらも結果的には家庭に戻せないで施設に預ける。その後、里親の方々をお願いをするのか、施設で高校卒業まで、もしくは大学まで行かせるのかというところのやりとりをしているところである。そういう意味では、やはり人材を施設の方でも確保・育成いただき、できるだけ子どもたちと信頼関係を持った先生方に長く勤めていただくというための取り組みも必要なので、いかに行政として施設を支えていくのかということも課題と認識している。
- ・それから、自立支援コーディネーターの関係は今年度2名予算化して、実施に取り組んでいくところであるが、やはり継続的に進めていくということで、一遍にはなかなか難しいと思うので、段階的にということになると思うが、児童養護施設だけではなくて、乳児院や母子生活支援施設にも広げていく方向で検討していきたいと考えている。

◎議長

- ・今、神戸市では福祉人材の確保、定着、育成ということで懇話会を設けておられるが、その中で今検討されているのは、主に保育士、介護士、それから障害関係の介護というような分野であるが、ぜひこども家庭相談、あるいは社会的養育の領域での専門職の人たちの育成、確保、定着について、しっかりと考えていっていただきたいと思う。

○委員

- ・養護施設の退所後のケアについて、私自身、一人関わっている子どもがおり、児童養護施設にいた子で退所をして、退所したけど家を飛び出して今は一人で暮らしているような子がいる。おそらく他にもたくさんいると思う。その子と連絡をとり合って、ちゃんと生活できているかという話をするが、退所後のケアはすごく大事だと、その子を見ていて感じる。私は、その子の4年生と6年生を担当したので、この子を立派な成人にする責任を勝手に感じて、今やっているが、先ほど言われた自立支援コーディネーターが本当に必要だと思う。例えば、これはどこまで実現できるかわからないが、退職された教員の再任用の職場としてそういう場があり、例えば、養護施設と行政がそれぞれお給料を半分ずつ出すとかいう形でできれば、教員を経験された方はこういうつながりをすごく大事にされる方が多かったり、そういうところに全力を傾けてくださる方がいるので、そういうところにも人材が眠っているのかもしれないと聞いていて思った。
- ・青少年の育成について、先ほど、夏休みが短くなってキャンプができなくなったとおっしゃっていたが、本当に夏休みがどんどん短くなり、逆に、様々な行事がある一定の期間に詰め込まれているというのをいろんな場面で私も感じている。チラシのことも話に出ていたが、今、子どもたちが登下校したら保護者にメールがいくようになっている。ということは逆を言うと、学校がほぼ全員、9割5分の保護者の方にメールを送ることができる。そこに案内のリンクを張って、あとはそこからみんなが見ていけるようにできるのではないかと考えている。
- ・それと、地域における子育て支援について、今、学校が働き方改革で教師が関わっていたところが切られていっているが、全て地域に託せるかというところではないと思う。何でもかんでも地域、保護者というのが合い言葉になって、多分飽和状態になっていると思うので、そこでぜひキャンペーン的に打っていただきたいと思うのは、まずは私たち公務員から、地域に戻ろうという運動をすることである。地域の方で、リタイアされた方が一生懸命されているが、現役でも十分できることがあるので、土曜日から日曜日のどちらかは、地域の何かに関わろうというキャンペーン的なものを実施し、そうやって地域に戻っている人を表彰し、みんなでたたえてあげるようないい仕組みができれば、やりがいを感じることもできる。そういうふうに関わりを断ち切ると、地域の活動というのはどんどん縮小されていくだけだと思う。働き方改革でいろいろなものが切られているので、逆に切られたところに私たちが回っていくという循環をつくっていかないと難しいと考えている。
- ・小学校教育との円滑な接続・連携のところ、 「いじめ撲滅」という言葉はやはり入れていただきたいと思う。もちろん幼稚園・保育所でもいじめ指導というのはしていると思うが、法律ができ、いじめの定義が変わって、もう第三者委員会のなり手がいないような状況になるぐらい乱立するような状況になっているので、この「いじめ撲滅」というところについて、どのように幼児教育と小学校教育で連携できるのかを研究していくということ、一つ文言として挙げておくべきだと思っている。

- ・インクルーシブ教育の推進とあるが、実はインクルーシブ教育や特別支援教育が推進されるあまり、過密化になっているという逆の問題もあつたりするので、受け皿をきちんとつくっていくということも大事だと思う。
- ・もう一つ、入管法の改正で外国人の子どもたちが増えてくる。そういった子どもたちの困り感というところも、ここに盛り込むのがいいのかどうか分からないが、やはり神戸で過ごしている子どもたちなので、外国語のボランティアとか、そういったところを幼児期から小学校教育にかけての連携の中で盛り込んでいけたらいいプランになるのではないかと思う。

●事務局

- ・地域との関わりという点で、主体的にどう関わっていくのかは、言葉の表現として難しい面もあると思う。ただ一方で、地域での子育てというのはこの子ども・子育ての中で非常に大切な観点となるので、表現についてはまた御相談させていただきたい。
- ・それと「いじめ撲滅」については、先ほどからお話しさせていただいている幼児期の教育の中身を、ある意味具体的にここで表現することでそういうことにつながっていくのではないかと思っている。具体的に言うと、幼児期の教育の中身が自立心であったり、あと道徳性・規範意識の芽生えであったり、社会生活とのかかわりであったり、そういうことも踏まえての幼児教育の質の向上というところが、ひいては他者との関わりの中でいじめ撲滅にもつながっていくと思っているので、ご理解いただきたい。

○委員

- ・本当にこのプランを見て変わったなと思っていて、私の記憶が確かであれば、この計画を立て出してから子育てが教育と保育とサービスという言葉で表現されるようになり、非常に専門家のものになってきたなというふうに感じている。先ほど、地域に戻ろうという話があつたので、あまり後ろ向きなことは言いたくないが、かなり難しい状況になっていると思っている。私の団体も含め、もともとはお母さんたちの自主グループというのがたくさん神戸にはあつて、そこで子育てをしてきて、そこで縦の関係があつて、そのまま小学校、中学校とつながって行って、子ども会とかがまだあつたころは、地域で青少協なんかも若いお母さんたちがたくさん入つてというところで、そういう意味での地に足の着いたというか、自分の住んでいるところの割と近いエリアを地域と捉えて子育てをしていた時期が長かつた。どれもそうだが、制度が整うことによって、非常に専門家のものになって行って、時間的に余裕とか自由とかそういうものがなくなっていると思っている。地域の施策のところも、少し前までは恐らく主任児童委員や地域の子育てサークル、子育て広場といったものが入っていたと思うが、確実にもう今は多分行政の施設が担っている。以前は、親育てという言葉があつたと思うが、今は消えてしまっている。これから保育はより整っていくので、大分専門家の方々の負担が大きくなると思う。なので、そこで突然に地域に戻ろうといつても、正直言って、今 NPO が主催している行事も子どもの集客に苦労している。公園にも子どもがいなくなっている。

高齢者が地域からいなくなってまた戻ってきているが、子どもも今地域からいなくなっていて、マンションとか戸建てでも隣同士の顔が分からない状態になっており、何か課題が深刻になってきているといつも思っている。なので、地域に戻ろうということを実現するとなると青少協の方とかふれまちの方とか地域の方々に負担がかかり一番しんどいと思うが、だからといっても、今から地域の人々が絡むプランを計画に入れ込むというのも難しいので何とも言えないが、いろいろな意味ですごく状況が変わっており、専門職の皆さんの負担が増えていっているように思った。

●事務局

- ・地域の話、今は子育ての会議の場なので、その枠の中でということになるとなかなか難しい部分もあるというのも承知している。先ほど、公務員の方からやろうじゃないかという話もあったが、神戸市は実は地域貢献応援制度に2年ほど前から取り組んでいる。一方で、他の部局でソーシャルブリッジという地域と経験を持った職員をつないでいこうという取り組みも行っている。今回のプランに盛り込むのは難しいかもしれないが、そういう事業をやっている部局もあるので、我々の会議でこんな意見が出たので、一歩進んでみてはどうかというのを全庁的に提案もしてみたい。

○委員

- ・学童の調査で利用料金が高いと出ている。これは民設と公設と両方あわせてあるから出てきている言葉なのか、民設に対してなのか、公設に対してなのか。

●事務局

- ・公設、民設あわせての数字である。

○委員

- ・公設で高いと言われたら多分厳しい。4,500円は、この近辺でどこよりも安い。民設で高いと言われると自分たちが雇っている金額の兼ね合いが出てきて辛いと思ったので、その辺またお考えいただければありがたい。
- ・それから、皆さんが言っていた地域における子育て支援について、児童館・学童の方からの立場で言わせてもらおうと、ぜひ入れていただきたいと思うのは、幼・保・小学校の連携だけでなく、児童館・学童との連携という観点である。実は、神戸市には児童館は123館ある。幼稚園に行く前の子どもたちもいるような児童館、それから保育所の後で見ているのが学童、現実に小学校に行っている子どもたちを見ているのが児童館・学童である。全部に関わらないと僕らの仕事はできないと思っている。常にそこが抜けてしまっている。前回の会議でも話題になったし、どう入れてもらったらいいいのか分からないが、実感している。
- ・それから、今お話しているのは、現状に対しての対応の仕方だと思うが、これを20年前、30年前の子どもたちはどうだったのかということところがすごく問題なのだろうと思う。今、この会議で、今の子どもたちをどう育てるのか、この子どもたちが大人になった時に、どう動いてくれるのかというのが一番大事な観点だと思ってこの会議に出ている。これ

は、難しいところではあると思うが、体力的な問題についても、ハイハイをしたか、下をくぐったか、頭を打ったか、そこで泣いて学ぶものがたくさんある。それを危ないからと言って取ってしまう。保育所で頭を打ちましたと言われたら困るので、保育所もそれを避けようとする。それで、本当に自分の命を守れるのだろうかという話をさせてもらっている。それを、今の世の中はやった時点でばしっと切ってしまうから、何の体験もなく、裏づけがないから、大人になっても分からず、やってしまったということになっていないだろうか。そこら辺を親御さんたちにどう伝えていけばいいのか、支援という中でどういうふうに伝えていく方法があるのかをすごく考えさせられているというのが現状である。

◎議長

- ・確かに、将来どういう姿に育て、社会に貢献してもらおうのかというあたり、子育てビジョンとか、何とかビジョンというのは一応あるものの、そこまでしっかりと考えていない部分がある。神戸市としてビジョンを1つ提供するというのも可能だと思うが、そうすると少し時間もかかりそうな感じがするので、少し検討していただくということで、宿題にさせていただきます。

●事務局

- ・今いただいた御意見、本当に大切なことだと思っている。ただし、こういう子どもに将来育てほしいというビジョンというのは、様々な観点があり、答えが見つけにくいのではないかというふうにも思っている。
- ・このプランについては、今、御議論いただいている今後5年間で取り組むべき目標・方策というところに焦点を絞らせていただき、まとめていきたいと思っている。

○委員

- ・私の方からは少し行政的な話になってしまうかもしれないが、検証の方で母子保健事業等の認知度が低いとか、利用度が低いという話も出ており、今後のプランについて、第2章の「妊娠・出産・子育て期の支援」というところで、ワンストップ型の相談支援体制の充実というのが書かれている。御存じだと思うが、これは国が以前から進めている、子育て世帯包括支援センターにあたり、これを各市町で設置して行って、全国の市町に設置するという目標で今動いている。神戸市ではこれが各区のこども家庭支援室にあたるということで、こちらでこのワンストップの相談事業というのをずっとされているけれども、結局これがどの程度、実際にその中身ができていくかという、非常に心配な面があり、形骸化されていくのではないかという恐れも出ている。そういう中で、神戸市においては、各区にこの相談室の拠点があるということで、この機能を進めていき、ここを中心にしていろんな支援の関係団体とのネットワークを進めていく、地域ともつなげていくというような体制づくりを進めていくことが、今一番必要ではないかと思っている。また、保健師等が相談員になられることが多いと思うが、やはり全員の子どもを継続的に見ていくということが非常に重要なことなので、そういう意味で増員が必要

だと思し、スタッフのスキルアップとそのため研修等も進めていっていただきたい
と
思っている。これを中心として、各区で子育て支援の連携ができていけばいいと思
う
ので、ぜひとも進めていっていただきたい。

◎議長

・ぜひ進めていっていただきたいと思う。

欠席の委員から意見をいただいていると聞いているので、ご紹介いただきたい。

●事務局

・幼児教育の質の向上、その中身についてももう少し保護者に理解をしてもらう必要がある
のではないかという意見をいただいている。

・それともう一点、地域における子育て支援について、学童保育と学校との情報共有、連
携を深める場づくりが必要ではないのかという意見もいただいている。

◎議長

・今回は素案をお示しいただいたが、その素案の修正に関わるような御意見もたくさんい
ただいているので、今日出された御意見を踏まえて、引き続き素案の検討をお願いした
い。本日示されなかった量の見込みと確保方策等についても、11月に開催予定の第3回
子ども・子育て会議であわせて御提示いただきたい。

(2)「教育・保育部会」及び「放課後子ども総合プラン推進委員会」での検討状況

●事務局

「教育・保育部会」及び「放課後子ども総合プラン推進委員会」での検討状況について資
料3及び4により説明(省略)。

○意見なし

第2回 神戸市子ども・子育て会議 委員追加意見

- 人口減少対策はとても大事だと思う。学童保育の朝8時開設や昼食提供はとてもいい。
- ICTシステムや睡眠中の事故防止機器の導入について、色んな機種があり、使用期限が3年というものがほとんどで、導入後も3年ごとに買い換える必要がある。リース契約という方法もあるが、大変高額なので、導入100%を目指すのであれば、導入機器の機種や契約方法についても、市として検討していただきたい。
- 幼児期の教育・保育の質の向上のところで、親子のふれあいや親育てについての内容を入れてほしい。幼児期の教育・保育は、園・施設のみが行うものではないので、家庭に関する記載も入れてほしい。神戸らしい幼児教育・保育が盛り込めるといいのではと思う。
- 調査結果全体として、単年度の結果しかないため前回調査との比較ができない。重要だと思われる点については、前回及び前々回との比較が必要ではないか。
- 評価指標について、どこの市でも問題になってきていることかと感じているが、施設が充実してくると同時に、保護者の中には何でもやってもらえて当たり前と思われる方が増えてきていると感じる。保護者は地域の中でつながり、主体的に子育てしていく当事者なので、保護者の当事者性（地域の子育て環境や地域をよくすること等）を大切にしたい取り組みも強化されるべきではと感じている。そういった当事者性のようなものも、今後は指標の中に盛り込まれていくべきではないかと思う。
- 2024年にまでに取り組むべき6つの柱について、堅実な柱ではあるが、神戸らしさを上手に出した計画ができるともって魅力が伝わると思う。
- 成長期の子どもの心身の健全育成は、最重要課題と考える。そのためには、医療の視点からの施策も盛り込むことが必要ではないか。安心して産み育てる出発点となる「周産期医療体制」や子育て中の保護者の不安軽減を図るための2次救急を含む「小児救急医療体制の整備」を維持・推進することが重要であると考えます。
- 日本では、人体の仕組み・人の心と体の病気・人の遺伝等に関する生命・健康教育などの量と質は国際的に見て極めて貧弱である。次世代を担う成育過程にある者にそれらを正しく教えるため健康教育を充実し、各自が自分の健康について、自主的に取り組んでいける力を養うことが重要である。